

平成20年(2008年)3月20日発行



学校法人 日本工業大学創立100周年

100周年記念の平成19年度が終わろうとしているが、学園第二世紀はこれから本番。今後も変わらぬ御支援をお願いしたい。左は、100周年記念シンボルマーク。無限を表す「メビウスの環」をモチーフとしてデザインされている。

# 学位取得おめでとう 卒業生に贈る言葉



学長 柳澤 章

ご卒業おめでとう。  
本学園が第2世紀のスタートを迎えたとき、諸君もまた大いなる人生の次のステップのスタートを切るのです。

諸君は本学において、機械工学、電気電子工学、建築学、システム工学、情報工学と、それぞれの技術を磨いてきました。実験、研究、設計、制作に、研究室に泊り込むなどして打ち込んだことでしょうか。それは、ほかならぬ、諸君にエンジニア魂を育ててきた日々ということができるに違いありません。



理事長 大川陽康

学位を取得された諸君、またにおめでとうございます。  
本学園は昨年、創立100周年を迎え、それを機に、新時代の工業教育の磁場にふさわしい環境や制度を整えました。狙いは、〈技術〉〈知識〉そして〈情報〉が従前にもまして経済の駆動力になっていくと指摘される、いわゆるポスト産業資本主義の時代に、新たな学びの手立てが飛躍的に高まっているからに他なりません。

ことほど左様に、諸君も、いまこの場からでも時代に即応する気構え、自分なりの新たな知の枠組みを据え直さなければなりません。と申しますのは、ま

## 実現する工学をそなえた エンジニア

### アメリカのある調査会社の発表によれば、これからの技術トレンドの第一位に挙げられるのが、環境に優しい情報通信技術だともいわれています。そうした調査を待つまでもなく、エンジニアにとって、環境はもはや優先的に取り組まなければならない技術的課題なのです。

代替エネルギーとして浮上したバイオ・エネルギーは、世界の食糧問題の脅威といわれます。アメリカなど炭酸ガス排出超大国も、ようやく他の国とともに取り組む姿勢を見せはじめたように思えます。日本は京都議定書以来のリーダーシップの発揮が期待されているのです。

さて、この時代に技術を学んだ者として、人生の次のステップに踏み出す諸君は、諸君が活躍するフィールドである、この地球に目を向けなければなりません。気候変動、いわゆる地球温暖化問題は、今や待ったなしです。南太平洋の国々の水没の危機は進行しており、日本においても温暖化は、米作への影響などが指摘されています。石油

ません。

環境負荷を限りなくミニマ化する生産システム、消費スタイルを作り出すことが、21世紀の人類の課題です。実現する工学たる実工学の自負をもって、諸君に、この大きな仕事に挑戦していただきたいと願っています。今日のエンジニアとしての責務を果たし、かつ社会からの期待に応えるために、新しいスタートを始める諸君と、第2世紀を歩む本学とが、ともに実工学の力を発揮していくことは、たいへん喜ばしいことであると、思っています。健闘を祈ります。

味ですが、転じて、人間も時に焼きを入れ、鍛えるということをやらないと、ものにならない。つまり最高の教育を受けた人間でも、のちの自己陶冶を怠ると、尊敬される人間や社会に役立つ人物にはなり得ない、ということでもあります。

さらに申し上げれば、今後は己の力を道徳を切り拓いて行くほかありません。道を切り拓く基礎的な方法論に関しては、すでに諸君は大学で教えを受けているはずですから、それを参照しながら自分なりの生きる道筋を見出していただきたい。

## 自己陶冶の堅持を！

ますます厳しさの度を増す時代変化の渦中において、企業や諸官庁など各組織社会で期待される業績や責務を遂行して行かなければならないからであります。

ちなみに昨今の企業社会などでは、「日本は没落する!」「もはや経済の一流国ではない!」と指摘されるさなかで、生き残りをかけて、有能かつやる気のある人材育成に躍起です。

諸君の活躍の舞台である「もつくり」の世界で希求される能力とは、諸々のアイデアを具現化する高度な専門技術にあることは言えませんが、より己の活躍の場を拓くためには、果敢にアイデアを産み出せる知

力。加えて、その企画製品が社会的にどのような意味を持ちうるか、ふかく洞察できる見識と、言っているでしょう。

そして、それらの知力や見識などを身につけるためには、第一に、つねに耳目を働かせて世の中の事象や動向を観察すること。そして第二は、次々に生起する技術革新に対処できる、専門知識の学び直しが肝要です。

そこで私は、ここに諸君へのはなむけとして「自己陶冶」という言葉を用います。言い添えば「陶」とは焼き物を造る、また「冶」とは冶金の治で金属を精錬するという意

## 専門職大学院だより

### 学生の声を活かす運営

本専門職大学院もこの3月でいよいよ累積で1000人を超える技術経営修士を送り出すことになる。ちょうど3年前のこの季節に期待と不安が入り混じる中で新しい大学院を開校した頃のことを思い出すと、感慨もひとしおである。

20代後半から70歳までの年齢の違いもさることながら、職歴や人生経験すべてが異なる多彩な社会人学生相手の日々は、我々教職員

にとっても新鮮かつスリリングな体験である。彼らとの交流は教室内での講義にとどまらない。学外、つまり神田キャンパス近隣の居酒屋での深更にまで及ぶ熱い議論に発展することも決して珍しくない。

本大学院としても夏学期、冬学期の期初に行われるオリエンテーションにあわせて学生と教職員の「意見交換会」を開催して学生の意見、提案を聞く機会を設けて

ている。有名なトヨタの「カイゼン」では社員達から毎年、100万件以上の意見や提案が寄せられるという。中には重複するものもあるだろうが、それにしても大変な数である。こうした社員達の真摯な声があつてこそ世界企業としてのトヨタが存在している。

社会人大学院も教職員のみに存在するわけではない。そこには学生達の積極的な参画が欠かせない重要なファクターになっていることを改めて痛感している次第である。

教授(教務委員長) 宇野永紘

## カレッジマイスター 23名

### カレッジマイスター プライマリー 35名

## 誕生



機械加工工場の学生たち

本学の教育の柱、工房教育プログラムは全学的に整備・構築され、本年度はカレッジマイスター「カレッジマイスター」、「カレッジマイスタープライマリー」の称号が与えられる。

本年度、カレッジマイスターは次の5工房から23名が認定され、学位記授与式で認定証と金メダルが与えられる。また、「カレッジマイスタープライマリー」は4工房から35名が誕生する。

- カレッジマイスター
- 機械加工工房 5名
- 池田紀龍、市川賢一、菅原光洋、杉原光、平久悦之
- 型技術工房 7名
- 天野耕平、木暮祐一、神山

## 留学生別科38名修了

留学生別科日本語研修課程の修了証書授与式が、3月1日午前10時30分から学生会館ホールで行われた。

今回の修了者は、平成19年春季入学生36名と18年秋季入学生2名の合計38名。国別で見ると、中国29名、ベトナム各2名、



学長から記念品目録を受取る別科生代表

- 電子創造工房 1名
- 郡司一仁
- サステナブル建築工房 4名
- 趙正陽、植田恵理、岡崎文香、小林恭子

- ものづくり入門工房 27名
- 許昌龍、高瀬鍛、中澤康志
- 茂木一歩、吉田尚弘、井内敬人、大堀英之、笠井真吾
- 皆川侑太、山澤逸郎、出居祐哉、岡田尚久、小川聡一
- 柏本真司、平山義剛、山城剛司、加藤駿規、川上紘史
- 三浦章慶、石垣大介、笠井俊春、小林明博、小柳真樹
- 齋藤章裕、鈴木明文、奈良和俊、Kanhan Mananhar
- 物理体感工房 3名
- 小松拓哉、小澤一義、山崎

- 2×4木造建築工房 1名
- 佐竹忍
- ネットワーク構築工房 4名
- 館山慈人、根本安曇、増田亮、茂木佑介
- カレッジマイスタープライマリー
- ものづくり入門工房 27名
- 許昌龍、高瀬鍛、中澤康志
- 茂木一歩、吉田尚弘、井内敬人、大堀英之、笠井真吾
- 皆川侑太、山澤逸郎、出居祐哉、岡田尚久、小川聡一
- 柏本真司、平山義剛、山城剛司、加藤駿規、川上紘史
- 三浦章慶、石垣大介、笠井俊春、小林明博、小柳真樹
- 齋藤章裕、鈴木明文、奈良和俊、Kanhan Mananhar
- 物理体感工房 3名
- 小松拓哉、小澤一義、山崎

平成十九年度 卒業生一覽

3月20日付 確定者

早期卒業

渡邊 健太 (京大工学部)

機械工学科

Table listing graduates in Mechanical Engineering (機械工学科) with columns for name, university, and department.

電気電子工学科

Table listing graduates in Electrical and Electronic Engineering (電気電子工学科) with columns for name, university, and department.

建築学科

Table listing graduates in Architecture (建築学科) with columns for name, university, and department.



博士号取得

おめでとうございます

課程博士



川口 洋一
機械工学専攻博士後期課程3年



清水 博幸
電気工学専攻博士後期課程3年



田中 幸徳
システム工学専攻博士後期課程3年

佐川君「マイクログラフコンテスト」で受賞



左から島崎君、佐川君

機械工学科中里裕一研究室に所属する同学科4年の佐川弘樹君(福島県立平工業高校出身)と島崎洋一君(東京都立科学技術高校出身)が、平成19年11月18日(日)に開催された全日本マイクログラフコンテスト...

学生代表と柳澤学長の第6回懇親昼食会



(前列左から)吉見課長、清水君、柳澤学長、梅崎部長(後列左から)長井君、中村君、齋藤君、岡部君、飯島君、谷口君、長澤君

1月21日(月)、第6回目となる懇親昼食会が開催された。この件については大学側も憂慮しており、鋭意検討していく、というこ...

学内合同企業説明会



企業担当者の説明を熱心に聞く学生

今年度は201社の参加を得て、2月21日から29日...

物品購入に「たのめる」導入

「日本工業大学における予算執行の不正防止に関する基本方針」に基づき、発注から納品に至る過程の透明性が高いウェブ調達システム「たのめる」を導入した。平成19年12月から事務部門における消耗品等の購入手段として運用を開始。今後、官代キャンパス全体に拡大していく予定である。(財務部)

最近の環境活動

平成19年12月7日(金)、環境特別講演会「日本工業大学における予算執行の不正防止に関する基本方針」に基づき、発注から納品に至る過程の透明性が高いウェブ調達システム「たのめる」を導入した。平成19年12月から事務部門における消耗品等の購入手段として運用を開始。今後、官代キャンパス全体に拡大していく予定である。(財務部)

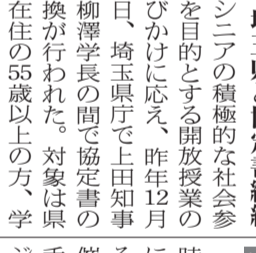
「大学によるリカレント教育」共同実施



上田知事と県内4大学が協定書の交換(左から2人目が柳澤学長)

埼玉県の積極的な社会参加を目的とする開放授業の呼びかけに応え、昨年12月25日、埼玉県庁で上田知事と柳澤学長の間で協定書の交換が行われた。対象は県内在住の55歳以上の方、学部生と共に受講する。春学期より「日本建築史」、「建築計画3」、「環境とエネルギー」を開講。秋学期は別科目を開講する。要項は本学ウェブページで公開中。

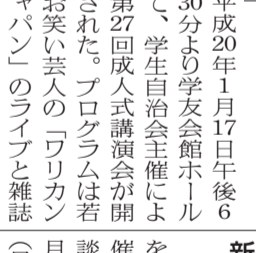
新成人式講演会



第27回

平成20年1月17日午後6時30分より学生会館ホールにて、学生自治会主催による第27回新成人式講演会が開催された。プログラムは若手お笑い芸人の「ワリカンジャパン」のライブと雑誌「ア・アイドル」南明奈のトークショー。特に南さんは現在18歳で、先輩の立場から成人を迎えた先輩たちから熱いエールを送った。

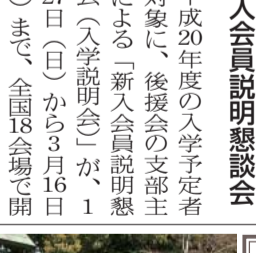
後援会 新入会員説明懇談会



平成20年度の入学予定者を対象に、後援会の支部主催による「新入会員説明懇談会(入学説明会)」が、1月27日(日)から3月16日(日)まで、全国18会場で開催された。

参加した会員からは、入学前の不安が解消できて良かった、先輩の体験談を聞いて参考になったと好評を得ている。

天満宮例祭



好天に恵まれた今年の例祭

平成20年度日本工業大学天満宮例祭が、2月23日11時から天満宮社にて挙行された。昨年10月、小山崇教会会長、前会長であった飯田顧問が逝去されたため今年度は会長不在での例祭となった。当日は、川島同会副会長以下、大川理事、柳澤学長等が参列。なお、例祭の前に開かれた幹事会において新会長に田川鋭治氏が互選された。

人事異動

【任用】(1月1日付)
森戸秀幸事務職員(総務部総務課)
【企画】(12月20日付)
企画室室長 原利次教授(再任)
教育研究推進室室長 波多野純教授(再任)
【3月1日付】
副理事長 柳澤学長
奥寺広政事務職員(専門職大学院)

【定年退職】(3月31日付)

村川正夫教授(専門職大学院)
酒井誠教授(共通教育学系)
鈴木康之教授(共通教育学系)
藤崎雅彦講師(共通教育学系)
石田之則教授(電気電子工学科)
市橋重勝教授(建築工学科)
渡辺顯教授(システム工学科)
樺澤康夫教授(情報工学科)
田部井英二助手(機械工作センター)
浅野ミエ子主任(学生支援課)

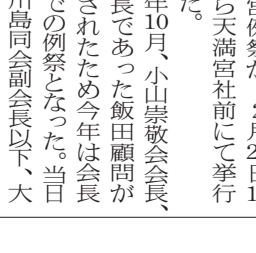
後援会 新入会員説明懇談会



平成20年度の入学予定者を対象に、後援会の支部主催による「新入会員説明懇談会(入学説明会)」が、1月27日(日)から3月16日(日)まで、全国18会場で開催された。

参加した会員からは、入学前の不安が解消できて良かった、先輩の体験談を聞いて参考になったと好評を得ている。

天満宮例祭



好天に恵まれた今年の例祭

平成20年度日本工業大学天満宮例祭が、2月23日11時から天満宮社にて挙行された。昨年10月、小山崇教会会長、前会長であった飯田顧問が逝去されたため今年度は会長不在での例祭となった。当日は、川島同会副会長以下、大川理事、柳澤学長等が参列。なお、例祭の前に開かれた幹事会において新会長に田川鋭治氏が互選された。

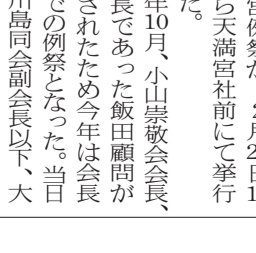
【定年退職】(3月31日付)

村川正夫教授(専門職大学院)
酒井誠教授(共通教育学系)
鈴木康之教授(共通教育学系)
藤崎雅彦講師(共通教育学系)
石田之則教授(電気電子工学科)
市橋重勝教授(建築工学科)
渡辺顯教授(システム工学科)
樺澤康夫教授(情報工学科)
田部井英二助手(機械工作センター)
浅野ミエ子主任(学生支援課)

【任用】(1月1日付)

森戸秀幸事務職員(総務部総務課)
【企画】(12月20日付)
企画室室長 原利次教授(再任)
教育研究推進室室長 波多野純教授(再任)
【3月1日付】
副理事長 柳澤学長
奥寺広政事務職員(専門職大学院)

後援会 新入会員説明懇談会



平成20年度の入学予定者を対象に、後援会の支部主催による「新入会員説明懇談会(入学説明会)」が、1月27日(日)から3月16日(日)まで、全国18会場で開催された。

参加した会員からは、入学前の不安が解消できて良かった、先輩の体験談を聞いて参考になったと好評を得ている。

【定年退職】(3月31日付)

村川正夫教授(専門職大学院)
酒井誠教授(共通教育学系)
鈴木康之教授(共通教育学系)
藤崎雅彦講師(共通教育学系)
石田之則教授(電気電子工学科)
市橋重勝教授(建築工学科)
渡辺顯教授(システム工学科)
樺澤康夫教授(情報工学科)
田部井英二助手(機械工作センター)
浅野ミエ子主任(学生支援課)

【任用】(1月1日付)

森戸秀幸事務職員(総務部総務課)
【企画】(12月20日付)
企画室室長 原利次教授(再任)
教育研究推進室室長 波多野純教授(再任)
【3月1日付】
副理事長 柳澤学長
奥寺広政事務職員(専門職大学院)

編集後記

▼学部及び大学院を卒業・修了した諸君、おめでとう。目標をクリアしたことに誇りを持ってもらいたい。又、このなかで勉強のみならず課外活動もアルバイト等を通じ、様々な経験を多くの人と共有し、これからの人生を必ずや豊かに導いてくれるものと思ってい。今日から、何度目かのスタートラインに自ら位置をとり、次の目標に向かって歩を進めてもらいたい。現在の就職戦線は「2007年問題」もあり絶好調である。もちろん諸君の努力の成果ではあるのだけれど、やはり運・不運を言えは、今は「運」の強い時である。それをアドバンテージとして、おこらず謙虚に、そして、勇気を持って活躍して欲しい。健闘を祈る。(F)



平成18年度に学生支援部が学生生活の実態について調査を行った。その中には、大学入学後のアルバイト経験の有無を尋ねる項目があり、約74%の学生が「有」と回答している。学生の4人に3人はアルバイト経験があるということになる。

購買部ではレジと商品の陳列を1日3〜4時間週3日。清掃部では建物内のワックス掛けや本館の窓拭き他を19時〜21時まで、週3〜4日行っている。授業がある時は、もちろん授業が優先だ。

購買部ではレジと商品の陳列を1日3〜4時間週3日。清掃部では建物内のワックス掛けや本館の窓拭き他を19時〜21時まで、週3〜4日行っている。授業がある時は、もちろん授業が優先だ。



佐々木 扶紗子さん システム工学科3年 (岩手県一関工業高等学校出身)

アルバイトは もう一つの学びの道

彼女が、清掃部のアルバイトを経験したこと、彼女が「好きです」と断言してくれた。大学を大事にするようになった。もし、このアルバイトに携わっていなかったら、机に書かれた落書きの人が大学を好きでいてくれることを願っている。

彼女が、清掃部のアルバイトを経験したこと、彼女が「好きです」と断言してくれた。大学を大事にするようになった。もし、このアルバイトに携わっていなかったら、机に書かれた落書きの人が大学を好きでいてくれることを願っている。

彼女が、清掃部のアルバイトを経験したこと、彼女が「好きです」と断言してくれた。大学を大事にするようになった。もし、このアルバイトに携わっていなかったら、机に書かれた落書きの人が大学を好きでいてくれることを願っている。

彼女が、清掃部のアルバイトを経験したこと、彼女が「好きです」と断言してくれた。大学を大事にするようになった。もし、このアルバイトに携わっていなかったら、机に書かれた落書きの人が大学を好きでいてくれることを願っている。

彼女が、清掃部のアルバイトを経験したこと、彼女が「好きです」と断言してくれた。大学を大事にするようになった。もし、このアルバイトに携わっていなかったら、机に書かれた落書きの人が大学を好きでいてくれることを願っている。

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。